

論文

中国の罵詈雑言の社会学的分析

張 新 力

要 旨

中国語には罵詈雑言が多い。その使い方は相手や場合によって、「妈罵」, 「家族罵」, 「脏罵」, 「死罵」, 「性罵」, 「欠陥罵」, 「女罵」, 「恶罵」, 「文罵」などと分類することができる。罵詈雑言は単に汚い言葉で人を侮辱するだけではなく、それを口に出す事によって快感を覚えて、口癖になってしまう人もいれば、鬱憤の発散の道具に使う人もいる。そして、仲間全員が同じ言葉を使う事は仲間意識の高揚に繋がるので、若者の間では汚い言葉が流行りやすいのである。中国語の罵詈雑言の数が多いのと裏腹に、その言葉のほとんどは辞書に載っていない。国際交流の多い、とりわけ、ネットコミュニケーションが盛んな今日では、外国人が意味を知らないまま、これらの罵詈雑言を使ってしまふことが起こっている。そのようなことを防ぐために、小論は罵詈の定義、中国の罵詈雑言の分類、その社会的文化的背景、罵詈雑言の階級差、性別差を分析し、罵詈雑言のネットでの変形を紹介する。

キーワード：中国の国罵、汚い言葉、罵詈、ネット罵詈、言葉の格差

一、罵詈の定義

言葉は交流の道具である。人間は感情を持つ生き物で、喜怒哀楽を表現するために豊富な言葉を駆使している。喜怒哀楽のうち「喜・楽」の表現には忌諱に触れる言葉は少ない。しかし、「怒・哀」を表す言葉はどうだろうか。中国語には「怒罵、痛罵、臭罵、責罵、辱罵、叱罵、咒罵」のように、「怒・哀」の感情を表す言葉には「罵」を使うことが多い。

世界各地に住んでいる中国人は現地の言葉と中国語を比較する際、中国語に罵詈雑言が多いと感じている。中国にいる外国人も同じ感想を持っている。

中国は歴史の長い多民族国家で、罵詈雑言が多くてもおかしくはない。しかし、それはいつの時代に始まり、どういう語源を持っているのかは史書や古代の文学作品を調べてもほとんど見当たらない。『戦国策・趙策』の「秦困趙之邯鄲」に記載している齊王が周王に「而母婢也」（あなたの母は賤人だ）が、文献に残っている最初の罵詈雑言と見られ、『水滸伝』の李逵の口癖の「鳥（diao3）」（男根）が、文学作品にある唯一の罵詈雑言と言われている。

中国語には日本語のような丁寧表現がない。しかし、語気、語意を巧みに使い分けることにより品位を保たせることが出来る言語である。つい100年前まで中国は識字率が低く、文字は有産階級で科挙試験に合格した文士、官僚のものであり、詩文を尊ぶ彼らは罵詈雑言とは無縁な存在であって、彼らによって書き記された史書、文学作品には罵詈雑言が見当たらないのは当然である。

教養ある者が罵詈雑言を歯牙にも掛けないことは昔も今も変わりはない。現代の文人も汚い言葉を文面に残す人は少ない。したがって、中国の罵詈雑言をテーマに纏めようとする場合、言葉の根差している社会文化とネイティブの勘に頼っていくしかないと覚悟している。

最初に何が罵詈雑言に当たるか？その条件は何かを、明確にしておかなければならない。英語の罵詈雑言を研究した Ruth Wajnryb 氏は、『Language most foul』①の中でその言葉の条件を、1. 人を陵辱する言葉、2. 人を陵辱する特定の言葉、3. タブーである言葉、4. 相手を憤りと驚き、気詰まりを感じさせる言葉、5. 罵詈雑言に使われた物体が実際存在するもの、6. その実在した物体は汚くて、気持ちを悪くするもの、としている。人類の善悪認識が共通している点からして、氏の罵詈雑言の条件は英語に限らず、他の言語に適用できると考えても良いだろう。

さらに、Ruth Wajnryb 氏は次のように罵詈雑言を細目に分け、具体的に説明した。1. 罵る言葉（子供を叱る言葉も含める）2. 神様への冒瀆、3. 呪う言葉、4. 下卑た言葉－悪賢に故意に汚い言葉を使う、5. 情緒的な罵詈用語、6. 婉曲な罵詈、7. 汚い言葉－排泄物、生理・性能と生理産物、8. 侮辱する言葉、9. 貶す言葉、10. 誓いの言葉、11. タブーである言葉－特定の文化では使用禁止の言葉、女性に失礼な言葉、12. 粗野で猥褻な言葉。

上記項目の中では、信仰の違いにより「2. 神様への冒瀆」を除くと、ほとんどが中国の罵詈雑言に当てはまるだろう。しかし、中国人の祖先崇拝を信仰と見なすことができるなら、全部当てはまることになる。

さて、上記12項に対応する中国の罵詈雑言はどんな特徴を持っているかをまとめてみよう。

1. 罵る言葉（子供を叱る言葉も含める）－粗野で猥褻な言葉が多い。
2. 神様への冒瀆－相手の両親、親族、先祖を罵る。

3. 呪う言葉－相手の死、相手の家族、親族の死を呪う
4. 下卑た言葉－即興的に作りだす場合が多い。
5. 情緒的な罵詈用語－全国共通のものもあれば、地域性のあるものもある。
6. 婉曲な罵詈雑言－汚い文字を使わず、含みのある言い回しを使う。
7. 汚い言葉（排泄物、生理・性）－もっとも多く使われる。
8. 侮辱する言葉－動物に譬え、身体の欠陥をあざ笑う
9. 貶す言葉－上項と同じである。
10. 誓いの言葉－第2項の祖先崇拜と対応して、自分の身分を低くする。
11. タブーである言葉－特に女性に失礼な言葉が多い。
12. 粗野で猥褻な言葉－第1項に統合できる。

そのうち1と12、2と11、8と9が中国の罵詈雑言では同じ範疇に入る。したがって、これらは以下の9項目にまとめることができ、使う頻度により、次のように並べかえることができる。

1. 情緒的な罵詈用語－全国共通の「妈罵」。
2. タブーである言葉－性、親族、祖先を罵る「家族罵」。
3. 汚い言葉－排泄物、粗野な言葉を使う「脏罵」。
4. 呪う言葉－相手の死、相手の家族、親族の死を呪う「死罵」。
5. 猥褻な言葉（生理・性）－女性の性器、男性の性器で罵る「性罵」。
6. 侮辱する言葉－身体の欠陥をあざ笑う「欠陥罵」。
7. 女性に失礼な「女罵」。
8. 下卑た言葉－喧嘩する時に、即興に作りだす「悪罵」。
9. 婉曲な罵詈語－汚い文字を使わず、含みのある言い回しを使う「文罵」。

二、さまざまな罵詈雑言

中国の罵詈雑言を「妈罵」、「家族罵」、「脏罵」、「死罵」、「性罵」、「欠陥罵」、「女罵」、「悪罵」、「文罵」の9項目に分けると、文字からでもその程度の酷さがある程度分かるかもしれない。個々の言葉の中味を理解した場合、中国人の倫理観、道德水準を垣間見ることができる。次は上記9項目を順番に解析していく。

1 妈罵 「妈罵」とは「妈付き」の罵詈雑言のことで、使用頻度をもっとも高いのは「他妈的」である。「他妈的」については魯迅の有名な記述がある。つまり、「无论是谁，只要在中国过活，便总得常听到“他妈的”或其相类的口头禅。我想这话的分布，大概就跟着中国人的足迹之所至罢；使用的遍数，怕也未必比客气用的“您好呀”会更少。假使依或人所说，牡丹是中

国的“国花”，那么，这就可以算是中国的“国骂”了。」②（中国で生活していたら，誰でも「他妈的」またはそれに似た口癖をよく耳にする。私の推測では，この言葉の分布は中国人の足跡の至るところに広がっており，もしかすると使用する回数は挨拶用語の「您好呀」よりも多いかもしれない。もし人々が言うように，ボタンの花が中国の「国花」だとすれば，「他妈的」を中国の「国罵」と呼ぶこともできる。）

「他妈的」は中国では東西南北，老若男女を問わず，もっとも使われる回数の多い罵詈雑言の一つである。「他妈的」の三文字には穢さが感じられないうえ，4声有気音（ta4ma4de）が二つ続いて，韻律的にも感情の発散に格好の言葉である。罵詈は怒り，憤懣をはらす言葉である。しかし，「他妈的」はその限界を超えて，怒り，憤懣だけではなく，極度の驚き，興奮，苦痛を表現するときにも登場するのである。

- ①这天真他妈的热（or 冷）。 → 畜生！メッチャ暑いな～（or 寒い）
- ②这地方真他妈的脏。 → メッチャクチャ汚ねえ！バッチイな～。
- ③太他妈的疼了。 → 馬鹿たれ！痛いやないか！
- ④这活儿他妈的难干！ → 畜生！こんな難しいことヤツられるか！
- ⑤你他妈的怎么才来？ → たわけ！何でこんなに遅れてやがったんだ。
- ⑥你他妈的开慢点儿！ → 馬鹿やろー！速過ぎるぞ！
- ⑦这么多作业，什么时候才能他妈的写完啊。 → くそつたれ！宿題が多すぎるぜ！

終わらねえよ。

- ⑧他妈的太痛快了。 → ヤツタゼ！
- ⑨他妈的糟糕了。 → ちえっ！最低！
- ⑩他妈的，吓我一跳。 → えっ！あほか！馬鹿たれ！びっくりこいたな～。
- ⑪他妈的！ → あほらしっ！（いろんな場面に使える）

①②③④の中で「他妈的」は程度を強調する副詞「很，非常」に当たる。その前にすでに副詞「真，太」があるので，「他妈的」がなくても十分「暑さ，汚さ，痛さ，難しさ」の程度が表現できている。それなのに，さらに「他妈的」を使ったのは，それがすでに口癖になったほか，程度が話者の想像を超え，どうしようもない気持ちを表している。

⑤⑥は相手の行動，⑦は仕事の量に対する極度の不満をあらわにした表現である。ただ，⑤⑥は相手と信頼関係があった上でのことで，相手も「他妈的」をつけて返事すると考えられる。つまり，⑤ A: 你他妈的怎么才来？ B: 路上他妈的堵车了。⑥ A: 你他妈的开慢点儿！ B: 不满意，他妈的你来开。というふうに会話した可能性が大きい。⑤の会話に出た二つの「他妈的」はいずれも不満を表しているものの，Aの不満対象はBであるのに対して，Bの不満は渋滞に対するものであった。⑥は二人が不満をストレートに相手におつけている。「他妈的」がここまで繰り返されたのは仲間同士が同じ言葉を使うことによって対等かつ緊密な関係が

築かれるからであろう。

⑧は興奮、満足、愉快的な気持ちを表すものであった。暑い日に冷やしたビールを飲んだとき、試合に勝ったとき、予想以上にいい結果が出たとき、などに発せられたと考えられる。このときの「他妈的」は副詞にも感嘆詞にもなっている。

⑨は⑧と正反対、冷やしたビールを飲みたいのに冷蔵庫にないとき、試合に失敗しそう、または失敗したとき、思わしくない場面に遭遇したときの悲しくてどうしようもない感情を表している。

⑩は完全に驚いたときに発する感嘆詞である。

⑪は思わしくないことに遭遇したとき、多くの人には意識もせずこれ言ってしまう。多くの場合は独り言であって、いろんな意味に使われている。腰が机の角にぶつかったときの「他妈的」は「痛い」に当たり、列車に乗り遅れた「他妈的」は悔しさ、料理が焦げたときの「他妈的」は「しまった」に当たる。いずれにせよ、失望と不愉快的な語気を表わしている。

「他妈的」には汚い文字がなく、他の罵詈雑言と比べて清潔的であるように思われたのか、老若男女が独り言、口癖、罵りなど平気に口に、「国罵」にまで昇格させた。しかし、語源を探ってみれば「他妈的」には中国の罵詈雑言の基本が全部そろっている。その基本とは、すなわち性と性器にまつわる言葉である。

実際、「○他妈的○」は前に動詞、後ろに名詞を一文字ずつ省略している。中国人なら「○」に何を入れるかすぐ分かる。つまり「操他妈的屁 (bi)」である。中国でよく耳にする「操他妈的」と「他妈的屁 (bi)」もここから派生した言葉である。中国人民大学の教授で性学者の潘绥铭氏は、「操他妈的屁 (bi)」の前にさらに主語の「我」があったと解説している③。いずれにせよ、「他妈的」は極めて汚い罵詈雑言の省略語であって、軽く口にすべきものではない。

2 家族罵 西洋の語学者は、相手の信仰を冒瀆することは罵詈雑言に当たると考えている。大多数の中国人は無信仰で、宗教知識も乏しいことから、相手の信仰を冒瀆する発想もない。イスラム教信徒の前で「ブタ」を言わないエチケットは幼少期に教え込まれたから、ほとんど問題にならない。しかし、中国人は家族を大事し、先祖崇拜の念を抱いているから、相手を侮辱しようとするとき、その家族と先祖を冒瀆する言葉を使う。

「国罵」の説明で分かるように、家族罵のなかでは、相手の母を侮辱する言葉がもっとも多い。母を攻撃の対象にする記録は戦国時代齊王が周王に「而母婢也」（君の母は下人だ）を言ったことが最初で、それが民間に伝わって「尔母婢也」→「你妈的屁」に変わったと言われている。齊王が「而母婢也」を言った後、「卒为天下笑」という記載からその発言は王に相応しくない、下品だ、と考えられており、この見方は昔も今も変わらないことが分かる。

家族罵の典型文句は「操你妈」、「操你奶奶」、「操你八辈祖宗」で、主語はいずれも「我」

である。中国人なら誰でも小さいときから耳にしてきた「操」つきの罵詈雑言だが、「操」について辞書で調べてみたら、「操 (cao4)」が載っていないのに驚いた。『新華辞典』にも、ネットにある『漢典』にもない。このことが「操 (cao4)」は卑猥で穢い言葉であることを物語ってくれた。知識人、教養のある人はそれを口にしない。ゆえに、辞書の編纂者たちがそれを辞書に収録しようとしなかったと推察する。

アメリカの新聞記者エドガー・スノーは『中国の赤い星』のなかで「操你妈」を「君のお母さんをレイプする」と訳している。しかし、実際は、この言葉は多くの場合完了形の意味を持っている。つまり「操你妈 (君のお母さんをレイプした)」は、「君は俺の息子だ」の意味を暗示し、「操你奶奶 (君の祖母をレイプした)」は「君は俺の孫だ」、「操你八輩祖宗 (君の八代前の先祖をレイプした)」は「俺が君の祖先だ」、という意味合いを持っている。欧米人も「Fuck」を言うが、この言葉には相手の女性親族を犯す意味はない。祖先崇拝し、血統と家柄を重視する中国の文化的脈絡からして、この罵詈の本当の意味は相手の女性親族を「操」したから、相手は自分の子、自分の子孫に当たる。したがって、自分が身分的地位的に相手の上にあることになる。

相手の親、先祖になることは何が得なのだろうか？ 伝統の子供啓蒙書『弟子規』には「父母教 須敬聽 父母責 須順承」(両親の教えは敬って聴き、両親にしかられた時は、素直に受け入れること)、「親所好 力為具 親所惡 謹為去」(親が好むものは、できるだけ親に代わって用意すること。親が好まないものは、注意して遠ざけること)、「或飲食 或坐走 長者先 幼者後」(飲食であれ、座るときや歩くときであれ、年長者が先に行き、年少者は後について行くこと)という文章がある。親に服従するだけではなく、親の嗜好まで尊重しなければならない。食事するのも、座るのも下位にある者が先にしてはいけない。こういう長幼秩序のなかでは、親が特権者である。喧嘩の際こういう特権者が優位にあり、相手を倒す正当性もあると思われるから、卑猥言葉を出しても辞さない結果になってしまったのであろう。

優位に立っただけでは終わっていない。「こんな俺はどうして君みたいなバカを生んだのか、君みたいな屑を生んだのか」と相手の人格を否定する含みもある。そういう意味合いがあるから、親が子に怒るときに「操你妈」を言う。

ただし、このような罵詈雑言が兄弟姉妹喧嘩の時には、女性の口から出てくる場合もある。それは上の理屈と関係なく、冷静さを失ったときの当たり散らしにすぎない。

3 脏罵 西洋も日本も「くそ」が汚い言葉に当たる。中国では国罵、家族罵と比べて、「屎、尿、屁」は程度が軽いものになる。インターネットで「放屁」は罵詈雑言に当たるか当たらないかを議論するくらいである。

「放屁」は人の意見、人の言うことを否定するときに言う。人の言った言葉を「屁」を放

ることに譬えたことは、侮辱でなければ何だろう。ただ、多くの人にはそれが「でたらめなことを言う」程度のもので見て、罵詈雑言に当たらないとしている。ウェブサイトの管理者が「放屁」を罵詈雑言として削除した際、投稿者の抗議を招き、物議をかもしたことがある。

罵詈雑言としての「屎」は「狗」と一緒に「狗屎」「臭狗屎」の形で使うことが多い。文化大革命中の批判文に「不齿于人类的狗屎堆」といった文句がよくあった。批判する対象を、人類が齒にもかけない犬の糞とする意味だった。

中国では街に行くとき喧嘩している場面によく遭遇する。双方は些細なことで罵りあい、打ちあかぬ。大抵の場合、片方が「今天真不走运踩了狗屎堆」（今日は運が悪く、犬の糞を踏んでしまった）と言い捨てて立ち去り、喧嘩に終止符を打つ。喧嘩の場合、先に立ち去った人のほうが負けて逃げたと思われるから、「犬の糞を踏んだ」ことにしておけば、「相手にする価値がない」として格好よく立ち去られるわけである。

中国語に「狗改不了吃屎」（犬が糞を食う習性をやめさせられない）という諺がある。悪い習性がいくつになっても直らないことを言う諺だが、気にいらぬ他人の主張を批判するときにも使う人がいる。ここで「狗」に譬えられた対象は「悪人」と決めつけられているので、普通の人間の悪い習性には使わない。「狗」は「不是人」の替わりになって罵詈に使われている。

「屎」も人を貶すに使われている。「撒泡尿照照自己」は分不相応なことを求める人に「自分のした尿を鏡にして自分の姿を見なさい（君にはそれを求める資格がないよ）」と言って、その要求をきっぱり断る俗語である。しかし、鏡を使う資格すらない、濁った尿に映っている自分の姿という貶しかたはひど過ぎる。

「狗改不了吃屎」と「撒泡尿照照自己」は『金瓶梅』、『儒林外史』『紅樓夢』にも登場している。いずれも文人の口によるものではなく、俗人による比喩である。この二つの成句は小説によって広められたのか、民間にすでに流行っていて小説に引用されたのかが判明しにくい。小説が描いた雰囲気からして、その使い方は昔も今も変わらず低俗的なもので、教養ある階層の使う言葉ではないと分かる。

4 死罵（呪う） 健康と長寿、多幸を願うのは人類共通の念である。中国人が言霊を信じているから、「死」という言葉を忌諱している。老人の前では特に「死」を避けなければならない。それは常識であり、マナーでもある。

「死」と関連する呪いは「老不死的（この死にぞこないが！ さっさと逝ってまえ！）」、「该死的（くたばれ！）」、「短命鬼（早死にするぞ！、短命なやつ）」、「见阎王（閻魔に会う＝死ぬ、ロクな死に方せんぞ！）」そして、今ネットで流行っている「死光光（家族が死に絶えるぜ！）」などがある。

「死」は嫌がられる言葉である。嫌いな人、喧嘩する相手を嫌がせることは罵詈雑言の目

的でもある。

「死」を用いて人を責めるのは孔子から始まっていると考えられる。『論語』憲問第十四に「原壤夷俟，子曰，幼而不孫弟，長而無述焉，老而不死，是為賊，以杖叩其脛」（原壤が片足を立て膝にして座って待っていた。先生が言われた。『お前は、幼児の時は素直ではなく、大人になってからは他人に賞賛されたことがなく、年老いても死ぬことがない。こういう人間を国賊というのである』孔子は杖で原壤の脛を叩かれた。）簡単に言えば「役に立たない人間は死ぬべきだ」ということだ。

それを端に、自分にとって邪魔で、不利になる者を責めるとき「死」と罵る。人間だけではなく、邪魔する物体に対しても「該死的」をつぶやく人もいる。

しかし、多くの場合ストレートに「死」を使わず、「死につながる不幸な事態の発生」を呪う言い方をする。「出门车撞死（出掛けるとき車の事故に遭う）、「发温病（疫病に罹る）」、「不得好死（いい死にはできない）」のように呪う。呪う言葉は決まり文句がなく、その時その場で恨みを発散できる言葉を作るのが普通である。筆者が70年代田舎で生活したとき農婦が近隣を呪う言葉を聞いたことがある。農婦の家が放し飼いにしていた鶏が見えなくなり、農婦は近所に住んでいる都会から来た知識青年がその鶏を割いて食べたと疑い、腹いせに屋根の上に登り銅製の洗面器を叩きながら叫んだ。「谁偷了俺家鸡了？吃了俺家鸡的人要得噎食④！（誰がうちの鶏を盗んだんだ？うちの鶏を食べた奴は、喉頭癌になって死ぬぞ！）。」このような呪いは下層民衆の間にたくさん発生している。

儒教倫理には「不孝有三，无后为大（不孝な行為は三つあり，その中で跡継ぎを残さないことが一番の不孝である）」、男の人にとって跡継ぎを残せないことは親不孝であるより、欠陥のように考えられている。その考えが根強く揺れがたいものであるため、一人っ子政策の完全実施が難しい。跡継ぎを残すために、多くの家庭は罰金を払っても男の子が生まれるまで子供を生み続けている。この伝統的な観念も呪いに悪用されている。「绝后（跡取りがない）」、「绝户（跡取りがなく、血統が途絶える）」、「断子绝孙（子孫が死に絶えて血統が途絶える）」がそれである。

死を呪う罵り方は人の病気、事故に対する恐怖心に付込み、儒教の教えをもとにした、自尊心を傷つけるという特徴を持っている。

欧米では、相手の信仰を侮辱することは罵詈に当たる。それは喧嘩する双方が異なる信仰を持つ場合に限られていて、同じ信仰を持つ者同士は信仰の話は喧嘩に持ち出さない。中国人のほとんどは無宗教、無信仰であるが、共通の倫理観を持っている。儒教倫理は中国人の行動規範となっている。共通の規範を呪いに使うことにより呪いの罵詈雑言が大量に発生した。たとえば、AがBに「让你绝后」を言ったら、BがAに「让你断子绝孙」と返す。AがBに「該死的」と言ったら、BがAに「你才该死呢」と反撃する。倫理観価値観が同じ

なので、類似語で言い合うことができ、勝つために言葉の汚さ、呪いの酷さがエスカレートしていく。これは中国が他の国より罵詈雑言が多い原因の一つではないかと推察している。

5 性罵 性と関連する罵詈雑言は第2項にある「操」よりも、女性の性器の「屌 (bi)」のほうがもっと多く使われる。これらの言葉を書く機会はほとんどないため、ほとんどの人がこの字を書けない。漢字を見ても読めない人が多くいると思う。インターネット交流の増加によりこの字が登場する頻度も増え、象形文字の表現は如実しすぎて、恥ずかしくて書けない場合もある。「屌 (bi)」を使っている、それを書かず「逼」「B」と書くのはいつのまに常識になってきた。形が清潔になっていても、汚い罵詈雑言の本質は変わっていない。

傻逼 (たわけ者、バカ者)、二逼 (まぬけなやつ、うっかり者) 牛逼 (すごいことをした人、偉そうな行動、仕事をする人)、苦逼 (不運な人)、装逼 (格好つける人、ナルシスト) などがある。「傻逼」は北京地方の罵詈雑言だったので「京罵」とも言い、使用頻度は国罵の「他妈的」を追い抜く勢いである。

「傻逼」はもともと男性が使う言葉で、女性は使うのを憚っていた。しかし、今は若い女の子も平気に言うようになり、チャットで二人の女子大生が互いのことを「傻逼」と言い合っていることを見かけたことがある。A という女子大生が一枚の写真をアップした。B がはっきり見えないと言った。すると、A：傻逼 (あほ)！ B：我哪里傻逼 (なんでや)? という会話があった。「傻逼」はまさに罵詈雑言でなく、形容詞になったり、感嘆詞になったりして使われている。

男性の性器を罵詈雑言として使う記録は『水滸伝』の李逵の口癖の「鳥 (diao3)」である。白話文になってから「鳥 (diao3)」は姿が消え、代わりに「鸡巴 (jiba)」が登場した。はっきりした意味合いがなく、男の人が当たり散らしに使っている。一時期北方の一部の地域で若い男の口癖になっていた。

2011年ネット論争を端に「屌 (diao3)」が再び流行り出した。「屌 (diao3)」は『水滸伝』に出た「鳥 (diao3)」の同音異字でどちらも男性の性器を意味している。論争する双方は罵り合い、片方が相手の応援者は安定した職業もない低所得者ばかりで「屌 (陰茎) 丝 (毛)」みたいな人間だとネットに書き込んだ。それまでにない酷い軽蔑語だが、意外に受けられ、多くの若い男性が自ら「屌丝」と名乗り、持ち家もない、車もない貧乏人と自虐する専門用語となった。「屌」の由緒が分からないのか、現在では本来女性が絶対に使うことのないこの言葉を平気に使い、自らを「女屌丝」と自虐している女性もいる。罵詈雑言の使用における男女の無差別化はこれらの言葉の広がりをも助長したと言っても過言ではない。

6 欠陥罵 身体の欠陥に関する罵詈雑言の罵詈雑言性について各国の認識が違う。こういうエピソードを聞いたことがある。日本に生まれ育った中国の女の子が中学校3年生のとき、両親とともに北京に戻り、家庭で中国語を勉強し続けていたので、現地の中学校3年生のクラ

スに編入できた。中国の学校生活について彼女の感想を聞いたところ、「中国の先生は差別語を連発している」と言った。

というのは、中国の学校は宿題が多く、遊び盛りの学生たちは「そんな、知らなかった」、「聞いてなかった」、「見なかった」を理由に宿題をさぼったりすることもある。それに対して、先生は「你聋啊?」「你瞎啊?」「你哑巴呀?」と責める。日本では「つんぼ」「めくら」「おし」が死語になり、本当に障害者にそれを言ったら人権侵害として訴えられる可能性もある。中国は障害者のことを「残疾人」と言う言い方があり、正式の場はこれを使う。しかし、教師として学生に「聋、瞎、哑」を使ってはいけないというような規定がないため、上のような責め方があったわけである。そう言われた学生もそれを侮辱と思わず、ただの「聞こえないのか?」、「見えないのか?」、「喋れないのか」としか受け止めていない。

中国では、とりわけ農村部では「聋子、瘸子、哑巴、瞎子、歪脖子」などのような身体の欠陥を表す言葉をその人のあだ名にして陰で言うのがありきたりのことで、良くないと分かっている、罵詈雑言とは思わない。そのように認識されるのは「大瞎子」、「臭瘸子」のように、つまり、副詞の「大」「臭」をつけたときだけである。

欠陥のほかに出身、職業、居住地も軽蔑、罵詈雑言の対象になる。「私生子（メカケの子）」、「丫头养的（テテ〔父親〕無しっ子）」はその種の言葉で、実際はそうでなくても、その母親がふしだらな女だと侮辱することにより、相手を怒らせるのである。「丫头养的（テテ無しっ子）」の中の「丫头」は未婚の娘で、「养的」は生んだという意味である。北京独特な言い方で、今は「丫的」という二文字に略して、「国罵」に追いつく勢いで広がっている。

「乡巴佬（田舎者）」、「剃头的（理容師）」、「做饭的（調理人）」、「打工的（出稼ぎ労働者）」一部の例にすぎないが、「職種+的」という言い方はその職業に従事する人を軽蔑するニュアンスが含まれている。このような言い方は儒教の「万般皆下品、唯有读书高（あらゆる営みはどれも下等であり、ただ読書（学問）のみが高尚である）」を背景としている。「読書」は職業ではなく、読書することによって高尚な職業に就くことを目指す。高尚な職業とは、現代語に言い換えれば、ホワイトカラーのことである。デスクワークを好み、物作りを軽視する考えが根強く存在しているから、中国からはブランド品が生まれにくいのである。

「南蛮子」、「北方佬」は罵詈雑言とまでは言わないが、軽蔑語である。漢民族が集中する北方こそ正当性のある人間だと思い、南方の人を「南蛮子」とする。逆に、南方は北方より物質的に豊かで、豊かな地域に住むとおのずから優越感が生まれてきて、貧しい北方を軽蔑し、北方の人間を「北方佬」と呼ぶ。物流の発達と人口移動の増加によりこの種の差別が減少傾向にある。

7 女罵 「母」を国罵に使ったことからでも分かるように罵詈雑言には常に女性と関連する文字が入っている。いつの時代、どんな社会でも、社会規範を逸脱する行為が非難される。

中国では貞操が女性の存在価値を判断するメジャーであって、貞操を守った女性が尊敬され、そうでない女性は軽蔑される倫理観は昔も今も変わっていない。ゆえに、女性を侮辱する言葉は貞操にかかわるものが多い。「鸡婆（売春婦、出しゃばり）」「臭婊子（娼妓）」「婊子养的（メカケ腹）」「烂货（ふしだらな女）」「头发长见识短（見識の浅い女）」「狐狸精（男をたぶらかす色っぽい女）」のように女性の性器だけではなく、女性的人格も貞操も罵詈雑言に出てくる。多くの場合、事実の有無と関係なく「鸡婆」「臭婊子」「烂货」のような言葉を使って女性を侮る。

1949年以後、中国は社会主義体制に移り、男女の平等を唱えてきた。しかし、倫理観における男女の不平等がなお根強い。婚前の性行為や不倫をした場合、女性が酷い仕打ちを受ける。「鸡婆」「臭婊子」「烂货」の悪名を一生背負い、陰で指さされる。それに対して、男の人に対して「色狼＝色鬼（スケベ）」という言い方があり、女性に使う言葉より数が少なく、罵倒の程度も低い。

8 悪罵 悪罵は上の7項目を使う場合もあり、それ以外に場当たりで作ることもある。状況により、人により作った罵詈雑言の程度が違う。

人ごみの中で、足が踏まれたり、体が強くぶつけられたりして、相手に「你没长眼啊（目がないんか、目が見えんのか）」「你瞎啊（メクラか）と怒鳴る人がいる。多くは、人の足を踏んでも謝りの言葉もなく知らん顔をしているから怒られる。怒鳴られたから怒鳴り返し、結局、怒鳴り合いの喧嘩になってしまう。

交通信号を無視して道路を渡る人を危うくひきそうになり、冷や汗をかかされた運転手が自動車の窓から頭を出して「找死啊你（おまえ死にたいんか、死ぬ気か）」「忙死啊（死に急いどらんか、死んでも知らんぞ!）」と大声で怒鳴る場面は良く見かける。

「杂种（合いの子）」「狗操的（犬）」「驴操的（ロバの子、あほか〜）」「王八犊子（人間じゃないな、ろくでなし）」「畜生（ちくしょう）」「笨猪、蠢驴（バカ、豚め、デブ、ブス）」「疯狗（狂犬みたいなやっちゃん）」「不是东西（悪いやつ、屑）」「不是人（人間じゃないな、悪魔、お前は鬼か）」「死鬼（死にぞこないめ、おばかさん）」「蠢货（ばかもの）」「饭桶（大飯食らい、穀潰し）」などから分かるように、中国の罵詈雑言は相手の人間性を否定する言葉が多い。ストレートに「不是人」と言えば汚い言葉を言わずに済むのに、それだけでは恨みや鬱憤をはらしきれず、「杂种」「狗操的」「驴操的」「王八犊子」を使ってしまう。「性罵」にもあったように、「杂种」は相手の母が不貞をしていた含みがあり、「狗操的」「驴操的」「王八犊子」はいずれも動物と性交して生まれた子の意味で、相手だけではなく、相手の親まで侮辱する言葉である。

鶏と犬は農耕民族の中国人にとって身近な存在で、その特徴を罵詈雑言に使われている。度胸もなく度量も小さく猜疑心が強い人のことをネズミの腹と鶏の腸に譬え「鼠肚鸡肠」と

いう熟語ができたのである。「売春婦」を飼い主のない「野鸡（野良鶏）」に譬えている。「鸡」だけ言うときもある。さらに無免許経営の大学、または自分の名前さえ書けば入学できる大学のことを「野鸡大学」と言う。

犬に対しては認識が矛盾している。忠誠で忠実だと思ふ反面、罵詈雑言にも良く使う。「狗腿子（悪事を働く手下、走狗、権力者たちの手先）」、「狗眼看人低（犬の眼には人が低く見えるという特性から、自分がつまらない人間のくせに他人より優れていると思ひあがるたとえ）」、「狼心狗肺（鬼畜のような心）」、「狗仗人勢（他人の勢力を笠に着て人をいじめる）」、「狗仔队（パパラッチ、追っかけ）」などのように犬の習性を品格のない行為のたとえになっている。

9 文罵 文罵の「文」は二つの理解がある。一つは文章のことで、皮肉な文書、または理性で辛辣な文章を書いて批判すること。もう一つは中国語の「文雅（上品だ）」の意で、汚い言葉を使わずに反論することである。魯迅の時弊を批判する短文は文罵の良い例である。中国には罵詈雑言がたくさんあり、平気に使う人が多いようだが、絶対に汚い言葉を言わない人もたくさん存在している。どうしても場合は「善有善報、悪有悪報、不是不報、时机未到（善には善の報いあり、悪には悪の報いある。時期まだ来たらず）」つまり、仏教の因果報応の観念で相手を呪うわけである。汚い言葉を掛けられたら、「我可不像你那么无耻（あなたのような恥知らずのことはできない）」、または「骂我就等于骂你自己（その言葉はあなた自身に対して使えば丁度良い）」と言って、相手の言葉をそのまま返すことになる。これは機智の富んだ上品なやり方と言わざるを得ない。

中国では罵詈雑言が時代により地域により違い、また新しい罵詈雑言がどんどん作られている。小論ではそれらを全部網羅することができない。しかし、中国的罵詈雑言の基づく社会観念を理解しておけば、罵詈の意味と程度が自ら分析でき、中国人の感情表現の一面を理解することができると思う。

三、罵詈の地域差、階級差、男女の差

1、地域差

罵詈雑言には「国罵」つまり全国共通に使うものもあれば、地域独特なものもある。同じ地域でも、大河や高山に阻まれていた時期が長かったため言葉が全然違う。方言の数と同じくらい罵詈雑言の種類がある。地域ごとに逐一に例をあげる紙幅がないゆえ、東北、北京、上海、四川という四つの地区の代表的な例を見てみよう。

東北では主に「性罵」であって、「操」と組み合わせた罵詈がほとんどである。「操」の対象は相手の母、祖母、祖先で、他の地域より表現がストレートで、汚い言葉が多い。東北の

罵詈雑言の酷さを超える地域はないとも言われている。

満州族が北京に入り、清王朝を建立した歴史からでも分かるように、北京語は東北の満州語と同じ方言を使っている。したがって、「操」系列の言葉は北京にもあり、「操」の対象は相手の母、祖母、祖先のほか、「他大爷（伯父）」もある。男性の親族を罵る対象にしているのはここだけである。しかし、当地では「操」系列の罵詈雑言を使う頻度は東北より少ない。そのかわりに北京には「京罵」と言われる独特の言葉がある。「傻屌（あほ、ばか、能無し）」という言葉は、「国罵」をも凌ぐ勢いで全国に蔓延しており、「丫挺的（テテナシっ子）」は北京っ子の口癖で、地方から北京に来た人はこの言葉をあまり使わない。

上海地域とは浙江省、江苏省を含む広大の地域のことをいう。「娘希匹（相手の母親が性的不正行為をした意味）」、「小妈妈的（側室の子、私生児）」、「小赤佬（鬼、手下）」、「十三点（ふしだらな女、間抜けな女）」、「瘪三（貧乏人）」、「巴子（田舎者）」などが良く耳にする。使われている漢字からでも分かるように北方の罵詈雑言とは違う。

四川方言の罵詈は「龟儿子（亀の子、人間じゃない）」、「虾子（臆病者）」、「讨口子（乞食、貧乏人）」、「瓜娃子（あほ、ばか）」などがある。その中でもっとも多く使われているのは「龟儿子」であって、北方の「王八蛋」と同じ意味である。つまり、全国の罵詈雑言に共通しているのは、相手の「人間性」を否定する点である。

四つの地域の共通点は相手の母を侮辱することである。ただし、南方では母親までに止まり、東北や北京のように相手の祖母、祖先まで罵ることはない。その違いは宗族制度の有無と宗族勢力の強弱にあると考えられる。

中国人は祖先崇拜の念を持っているものの、祖先の扱いは南北に大きな違いがある。南では同じ祖先、同一父系の親族および家族からできた集団—宗族があり、大きい宗族は「祖廟」を持ち、長老が族長として一族をまとめる。宗族には伝統のルールがあり、族員はそれに服従しなければならない。宗族の規制力は行政の力より強い場合もある。このような地域では祖先崇拜は理念ではなく、日常行事の一つになっているから、祖先を侮辱するような言葉が出にくいのである。

東北はもともと騎馬民族だった満州族の居住地で、移動性の高い生活スタイルは宗族の形成を妨げた。清王朝になってから満州族の人々が儒教文化を積極的に学び、幾世代を経て漢民族と同じ倫理観を持つようになった。しかし、祖先崇拜の観念があっても、宗族を形成するまでの文化ができていなかった。東北には満州族のほか、内地から流れてきた移民も大量に存在している。そのほとんどは山東半島から海を渡ってきた山東人であった。山東地域は宗族観念の弱い地域で、また、個々ばらばらに生活手段を求めに来た彼らは、族勢力を形成する力はなかった。というわけで、東北の人々にとって祖先はそれほど拘束力のある存在ではない事実から、罵詈雑言の性質に出ているのではないかと推察している。

上海の罵詈雑言は地域の歴史に密着している。十九世紀半ばから、英仏が上海で租借地を画定し100年以上支配していた。英国租借地の警備を担当していたのは、イギリスに占領されているインドから来たインド人であった。上海人がインド人の肌色を黒い赤と見ていたので、「赤佬」と呼ぶようになったわけである。「佬」はよそ者を蔑視する呼び方で、警備に当たっていたインド人は本国では植民地支配を受けていたにも関わらず、上海では威張り散らしていた。ゆえに、上海人はインド人の巡査に「赤佬」というあだ名をつけた。今はそれが番犬のような人、悪者の手先、鬼みtainな人間に使っている。

「瘠三」は英語の beg for から来ている説がある。上海人は beg for を beg say と言っていたので、漢字の「瘠三」に訳したのである。「瘠」は痩せ細い様子を言う形容詞で、本来は定職を持たず窃盗と物乞いで生活する者に使っていたが、今は容貌と挙動が卑しくて下品な人に使う。

南北の罵詈雑言を比較すると、北のそれには親族に被害を与える回数が多いのに対して、南は「貧乏人」で人を貶す。北は「穷相（貧相）」、「穷鬼（貧乏人）」という言い方もあるが、南ほど使われていない。

2. 階級の差

罵詈雑言の使用には階級的な格差が見られる。教養のある人、社会的に地位の高い人は他人の目に映る自身のイメージを大切にしているため、汚い言葉の使用を避けている。それに対して社会的にあまり責任がない下層労働者、浮浪者が汚い言葉を平気と言う傾向が強い。これは世界共通の認識と言えよう。

筆者は労働者が顔をひきつらせて、できる限りの力を出そうとしたとき、掛け声のように「操」か「操他妈的」を言ったのを見たことがある。そのとき、その言葉は汚い罵りとは思わず、ただ目の前の仕事の大変さと自分の無力さを嘆いているだけと聞こえた。そのような現象が労働現場で普通に発生している。徐々に掛け声が口癖になり、多くの人へと移ってしまった。そういうわけで、中国の男性はたいへんなことや残念なことに遭遇したとき思わず「操」という人が多い。

中国では教養のある人、教養のある家庭から出た人はどんなときでも汚い言葉を言わない。父母や兄弟から最初の汚い言葉を覚えた人が多いが、教養のある家庭は両親が汚い言葉を言わない、子供が言った場合両親が徹底的に説教するから、再発する可能性も低い。

しかし、中国では社会的地位の高い人は汚い言葉を言わないとは限らない。共産党の幹部は教育レベルの低い農民出身者が多いため、汚い言葉を言う人も多い。毛沢東の詩にも「放屁」⑤があり、著名な廬山会議の講話に「操娘（娘＝妈）」という言葉を繰り返した記録が共産党の文献⑥に残っている。

近年、北京大学の教授の孔慶東が香港人のことを「犬」、親米派の中国人を「米国犬」と

呼び、『南方都市報』の取材要綱を読んだ後「去你妈的，滚你妈的，操你妈的」と罵ったことが話題を呼んでいる。汚い言葉を言うべきではない教養あり地位ある教授がおおっぴらに罵詈雑言を発したことに對して批判する人もいれば、擁護する人もいる。このことから中国人の罵詈雑言に対する見方が変わり、地位あり教養ある人がその手の発言をしないという推論は中国では成り立たなくなっている。

3. 男女の差

かつては女の子を「行不動裙，笑不露齿（動くときはスカートの裾を揺れさせず，笑うとき歯を見せず）」としつけていた。現実には実行しがたい行動基準だが，淑やかな女性が理想だという考えは昔も今も変わっていない。女の子は汚い言葉を言ってはいけないと幼い頃から注意されるので，女の人は成長しても汚い言葉を言う人は少ない，たとえ言っても「国罵」ぐらいで，性罵などは絶対に言わない。しかし，これもある階層に止まり，下層住民が集まる地域，農村の中年女性は男性並みに汚い言葉を言う。彼女たちも若い頃，とりわけ結婚する前は罵詈を控えていた。というのは，男の人は淑やかな女性を好み，女は男の好みに合わせて自分を仕上げているからである。その後，悪い生活環境や日頃罵詈雑言を頻発する旦那と長く生活しているうちに，悪びれもなく汚い言葉を言うようになってしまう。

しかし，上記の状況が変わりつつある。一人っ子世代⑦の男女平等意識がさらに強くなって来ており，その親も文化大革命の造反期に青春時代を送った人が多く，その経験が子供の教育にも幾分影響を与えているので，今の若い女性は男性並みに汚い言葉を口にしている。若い女性が汚い言葉を言う原因はほかにもある。それについては次節で述べる。

四、罵詈雑言の蔓延と禁止

汚い言葉はいつどこで覚えたのだろうか。たいていの場合，最初は両親や兄弟から，その次は仲間からであって，意味が分からなくてもニュアンスが理解でき覚えてしまうのである。大人がさりげなく話していた言葉を幼い子が語気からその使い方を覚えてしまうのである。アメリカで生活している中国人夫婦から聞いた話だが，ある日，幼稚園に通っている牛乳嫌いな娘が，コップに牛乳を注いでくれた父に文句を言ったときに，「你他妈的怎么倒那么多啊？（なんでそんなにたくさん入れたの？）」と，国罵である「他妈的」の副詞的な使い方を的確に使ったのである。同じような例が中国本土以外の地域で生活している中国人家庭に発生している。

家庭で汚い言葉を覚えなかった子でも，幼稚園や小学校の進学につれて罵詈雑言の語彙が増えていく。これらの言葉は感情発散や相手を罵るだけではなく，仲間意識の増強にも役立っている。かつて，筆者のブログに「罵詈雑言」についての議論があり，そこに「中学校のと

き、クラスの男子が何かを喋ると、必ず全員が同じ悪い言葉を使っていた。そうでないと話ができないような雰囲気があった」というコメントがあった。彼らが使っていた「同じ悪い言葉」が国罵だとすると、コメントにあるようにそのクラスの男子の一員であって、仲間みんなが言葉に国罵を挟んで喋っているときに、自分だけが高潔な言い方を保っていたら、間違いなく仲間はずれにされるだろう。集団内で仲間と同じ口癖を使用することは一体感を維持する要領でもある。罵詈雑言はこのような一体感の中で伝染して、蔓延していくのである。しかし、個人の成長につれて独立性が強くなり、集団の影響力が減り、社会的地位により言葉習慣が違ってくる。

家庭と組織の影響以外、中国では政治運動が国民全体の言葉を汚染した時期があった。文化大革命（1966-1976）は、共産党内部の権力闘争でありながら国民全体を巻き込んだ。紅衛兵は毛沢東の戦士として共産党各階層の幹部を打倒する活動に参加し、プロレタリアー血統を純化する目的の為にかつての有産階級とその子弟に危害を加えた。彼らの行動綱領やスローガンには人間を物、動物にするような罵詈雑言と殺気が満ちていた。打倒する対象を「牛鬼蛇神（牛の妖怪と蛇の化け物）」とし、「砸烂狗头（犬どもの頭を完全に叩き潰せ）」、「死路一条（死ぬ）」と声高らかに叫び、『人民日報』も中央放送もそれを革命用語として使用していた。

1966年8月文革勃発時の紅衛兵の革命歌《鬼見愁》には「老子英雄儿好汉，老子反动儿混蛋。要是革命你就站过来，要是不革命（你）就滚他妈的蛋！滚，滚，滚！滚他妈的蛋！」という歌詞があり、混蛋（罵詈雑言の強い「ばか」）、他妈的、滚蛋（消え失せろ）などを歌詞に歌っていた。これは一例にすぎない。実際はもっと多くの罵詈雑言が革命用語としてマスコミ、学校教育、課外活動の中で使われていた。そのような言語環境に育った、小中高生と若者の言葉が品性を欠いているのは当然である。

文革が終息5年後の1981年、共産党中央機関と関係学会が唱えた「五講四美」が全国で大々的に繰り広げられた。「五講」とは「文明、礼儀、衛生、秩序、道徳」を提唱し、「四美」とは「言葉、心、行動、環境」を美しくしよう、というものであった。幼稚園と小学校の道徳授業なみの標語を社会運動でも使ったことは、文革がそれに対する破壊の酷さを物語っている。幼少期に身に付けるべきものを社会運動で補うなどということは、到底期待出来るものではない。その悪影響はいまも続いている。

パソコンの普及やインターネットを利用する人口の増加により、罵詈雑言がそれまでにない形とスピードで増えている。ある教授のブログに対して13177回ツイート投稿があり、それについてのコメントの中には罵詈雑言が1723回あった^⑧。その内容は中国固有のものもあれば、外来語も新語もあった。

ネット罵詈雑言の多くは鬱憤晴らしというよりも、心理的に他者に傷を付けようとしてい

て、他者が受けるその苦痛を楽しむ心理を満足するためのものである。中国では「氣富笑貧（裕福な人を妬み、貧乏人をあざ笑う）」の心理が常に働いているせい、ネットで自分にまったく関係のない人や事件を妬んだり、笑ったりし、その上、罵詈雑言で攻撃し、個々の事件の特徴に応じ新しい罵詈雑言を作り出している。新しい罵詈雑言が一旦ネットに現れると瞬く間に全国に広がり、流行語になってしまうのである。

インターネットでの発言は年齢、性別、名前を隠して自由にできるから、女性も男性と同じ言葉を使って書き込んだり、男性と罵り合ったりするようになった。女性が罵詈雑言を使っても、恥ずかしく感じなくなってしまう、習慣化、平常化されてきたとも言える。したがって、従来の罵詈雑言における男女の差もなくなってしまったのである。

ネットで罵詈雑言の多さと汚さを見かねて批判する人もたくさんあり、ネット管理者もフィルタを設け、汚い文字が通れないように規制しはじめた。しかし、その後も減少が見られず、表記を変えてさらに書きやすくなった。たとえば、「他妈的」はTMD、「他奶奶的」はTNND、「操你妈」は草泥馬、「傻屌」は傻BかSBと変わったのである。フィルタをさらに細かくしても、それなりに形を変えらせ潜りぬけるに違いない。

罵詈雑言を容認する意見もある。教育者、作家の易中天氏は、人間は感情を持つ生き物であり、不満を感じたら、それを払おうとするのは当たり前^⑨、おかげさにする必要はないとしている。人民大学教授の潘绥铭は人々が罵詈雑言から倫理や性に関する知識を勉強することができる^⑩。つまり、罵詈の内容からそんなことをしたら罵られるよ、そんなことをしてはいけないよ、と誰でも小さい時から知らないうちに教えられていた、と主張している。

反対派は罵詈雑言が道徳水準の低下と見ていて、容認派は単なる感情表現に過ぎないとしている。いずれにせよ、罵詈雑言の使用は感情をコントロールする能力と教養にかかっていて、最終的に行動に現れてくる。中国の街角、バスの中、商店内に頻発している激しい罵詈雑戦を見て、罵詈雑言の多い社会は穏やかで尊重しあう社会にはなりにくいと思う。

注

- ① 『Language most foul』 Ruth Wajnryb 著、顔韵 译<脏话文化史>、文汇出版社、2008
- ② 『论“他妈的”』 鲁迅、週刊『語絲』第37期、1925.7.19
- ③ 『“他妈的”与道德性』 中国人民大学教授 潘绥铭 ブログ2013、5、5
- ④ 噎食：河北省趙県方言「喉頭痛」の意味。
- ⑤ 『念奴娇・鸟儿问答』毛沢東 1965年作、1976年1月発表
- ⑥ 在中国共产党八届十中全会上的讲话（1962.9.24）
- ⑦ 中国では1979年一人っ子政策を実施し、その後出生した人のことを「一人っ子世代」という。
- ⑧ 劉小浩 ブログ 2014.3.2
- ⑨ <楚天都市报>記者（陳倩）のインタビュー 2012.1.29
- ⑩ 『“他妈的”与道德性』 中国人民大学教授 潘绥铭 ブログ2013、5、5

参考文献

- 1 『言語社会学入門』東 照二 著, 研究社 2009年11月
- 2 『脏话文化史』Ruth Wajnryb 著, 顔 韻 訳, 文汇出版社 2008年2月